

「拡大教科書」について

「拡大教科書」ってご存じですか？



「拡大教科書」とは？

弱視等の都合により、既存の教科書が読みにくい児童生徒のために、文字や図などを拡大して作られたものです。

「拡大教科書」には、すでに教科書会社がつけているものと、ボランティア団体等が、手書きや、パソコンを利用してながら、利用者に合わせて作るものがあります。

「拡大教科書」は下図のように、ただページを拡大するのではなく、書体・字のサイズ・字間・行間・背景・色などを調整します。

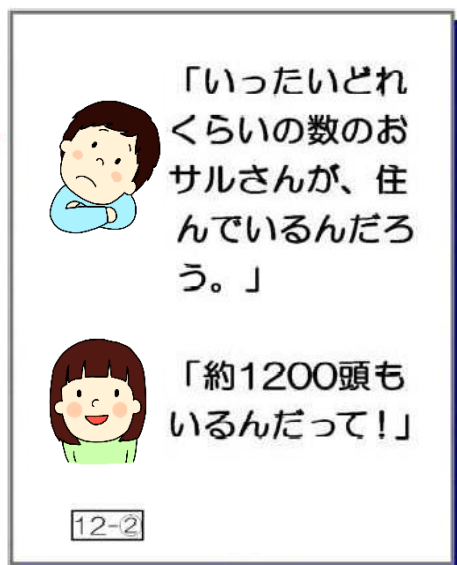
ボランティア団体に制作を依頼する場合、出来る限り個人の状況に合わせて調整されます。



「拡大教科書」の例

下図の例では、ある教科書の12ページを12-①と12-②の2ページに分けて作成しています。その中で、文字のフォントを大きくしたり、太字にしたり、見えづらい色のグラデーションを調整したりしています。

もとの教科書のページ(12ページ)



この例では扱っていない、グラフや地図、写真なども、できる限り利用者の状況に合わせた調整がされます。

「拡大教科書」は1ページを2～3ページに分けて作成するため、総ページ数も増えます。そのため、1冊の教科書が分冊になることがあります。(2～8分冊程度)

ボランティア団体に依頼する「拡大教科書」の手続きについて

利用者一人一人の状況に合わせて作成する「拡大教科書」は、その制作の大部分をボランティア団体の方々に頼っているのが現状です。

そのため、「拡大教科書」の供給を受けるには、事前に注文をしておく必要があります。

手続き等については、本相談窓口か、お住まいの市町村教育委員会の教科書担当者に相談してください。

1年間の流れ

